

# Preimplantation genetic diagnosis and natural conception: a comparison of live birth rates in patients with recurrent pregnancy loss associated with translocation

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2016-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 伊熊, 慎一郎 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001845">https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2001845</a>

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1702 号

Preimplantation genetic diagnosis and natural conception: a comparison of live birth rates in patients with recurrent pregnancy loss associated with translocation

(均衡型転座に起因する反復流産患者に対する着床前診断と自然妊娠の生児獲得率の比較)

伊熊 慎一郎 (いくま しんいちろう)

博士 (医学)

#### 論文審査結果の要旨

本論文は、均衡型転座に起因すると考えられる反復流産患者に対する着床前診断 (preimplantation genetic diagnosis: PGD) と自然妊娠の生児獲得率を解析・比較し、PGD の有用性について検証している。

まず、比較の対象とした 34 歳以下の PGD 群 37 組と自然妊娠群 52 組の平均年齢や既往流産回数などの症例背景に統計学的有意差を認めなかった。その上で、PGD 群において流産回数は有意に減少する一方、両群の初回生児獲得率と累積生児獲得率に統計学的有意差を認めないという結果が示された。また、両群の遺伝カウンセリング実施日から妊娠成立までの期間に有意差を認めず、妊娠に至らなかった割合と総分娩数あたりの双胎分娩率は PGD 群が有意に上昇するという結果が示された。著者らは、PGD は流産を減少させたが、生児獲得率の改善には貢献しなかったことを示した本研究のデータを均衡型転座に起因する反復流産患者への遺伝カウンセリングに有用な情報と結論付けている。本論文は、初めて平均年齢、既往流産回数的一致した両群を比較するコホート研究を実施し、PGD のメリット、デメリットを明らかにした。今後の反復流産に対する診療指針の一助となる臨床的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。